

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震・能登豪雨災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2024年11月3日（日）

活動隊員：金谷雅代

1. 活動期間

2024年10月26日（土）～27日（日）

2. 活動場所

避難所：珠洲市立大谷小中学校（珠洲市大谷町1字78番地）

3. 珠洲市の被害状況（10月22日14時現在 石川県庁情報 第166報）

人的被害 死者：126人 うち災害関連死：29人 負傷者：重症47人、軽症202人

住家被害 全壊：1,742棟、半壊：2,058棟、一部損壊：1,757棟 非住家被害：6,003棟

避難所 開設10箇所 避難者数68人

令和6年奥能登豪雨による被害等の状況 珠洲市（危機管理監室）

（10月25日（金）14時現在 第26報）

人的被害 死者：3人 行方不明者：0人 負傷者：軽症9人

住家被害 全壊：9棟 半壊：51棟 一部損壊：1棟

床上浸水：8棟 床下浸水：115棟 非住家被害：82棟

避難所開設状況 9箇所 避難者数44人

4. 避難所の状況

【避難者数】

大谷小中学校 10月26日～27日：28人

【避難所運営と生活状況】

避難所には石川県からの応援職員が2人おり、避難所運営を補助していた。断水状態は持続している。給水は屋外タンクに十分満たされていた。戸外の仮設トイレ、体育館入口ともに汚れは目立たなかった。外から戻った避難者は玄関先で手洗いを行っていた。

26日は翌日に選挙を控え、小中学校内が投票所となるため、市役所職員が午前中に会場設営を行っていた。また、学校行事があり、児童生徒や保護者が校舎内で活動していた。

27日は選挙のため、避難所運営者一人と避難者の一人が立会人として執務していた。また、外部支援者から炊き出しの提供があった。避難所内は静かだったが、選挙のために在宅者が校舎内に来られたり、ランチルームで炊き出しのきしめんをいただきながら歓談したり、子ども達の遊ぶ様子があり、にぎわっていた。

5. 支援活動の実際

<大谷小中学校避難所内での活動>

スタッフミーティングの後、トイレ掃除、床掃除等の環境整備を石川県の職員と共に実施した。また、物資のうち、ゴミ袋など清掃に関連したものを多く置いている場所の整理整頓を行った。衣類も冬用のものの提供が増えており、衣装ケース等に並べなおして取り出しやすくした。

在室している避難者に声をかけ、健康状況の確認、血圧測定を実施した。血圧手帳を豪雨災害で流失したため、新たにお渡しした避難者の血圧は 140 代と高めの状況が続いていた。

< 応急仮設住宅、馬縹地区避難所の訪問 >

高屋町第 1 団地の 9 軒を訪問した。5 軒は不在だった。1 軒は独居の方で定期的に訪問しているが、この日は友人の訪問があり、楽しそうに過ごしておられた。支援物資も届き、生活はできているが、2 L のペットボトルは重く、持ちにくいと話した。

馬縹地区の住民が避難している自然休養村センターを訪問した。洗車をしていた避難者から話を聞いた。避難者の健康状態は問題なく、食材の差し入れがあり、皆で食事を作って食べているとのことだった。

< 在宅避難者宅の訪問 >

娘さんと同居しているが、認知症の内服等もある 90 代の高齢者宅を訪問した。避難所避難者から、おむつが足りていないという情報をもらい、尿取りパッドとおむつを届けた。収縮期血圧が 150 代であったものの、元気に過ごされており、認知症の進行は見受けられなかった。

6. 支援活動を通しての所感と課題

マスク着用している避難者もあり、呼吸器症状への対策は浸透していると思われる。ただ、朝夕の寒暖差が強くなっているように感じられるため、引き続き、体調管理を継続してもらうように声かけをしていく必要がある。

避難者から「人がいないときは、私がトイレ掃除しようと思っている」という申し出があり、自主的に生活、運営していこうとする様子もうかがえた。役割意識が持てることも日々の生活の充実につながると考えられ、無理のないように依頼していくことも必要となってくる。

在宅者の状況について、避難者等からも情報が得られることもあり、訪問必要度の高い在宅者を見過ごすことなくフォローすることが可能だが、今後は支援体制が変更となるため、関係する各機関との連携と情報共有を密にし、担当する地区住民・避難者の健康を守っていけるように支援していく。